

ハチ博士の ミツバチコラム

27



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

サルスベリ (百日紅)

夏の盛りに咲き始める花木にサルスベリ(百日紅)があります。中国原産で江戸時代には各地で栽培されていたようです。京都でも神社仏閣などに植えられており、京都市役所の前庭にも植えてあります。一般に植物の名前はその特徴を表現していますが、サルスベリ(百日紅、ヒヤクジツコウ)くらいその姿や特徴を示す名前はありません。木登り上手のサルが滑る程に木肌がつるつるしているからサルスベリ、咲き始めると百日花が咲き続けるから百日紅。花の少ない夏場に長期間咲き続けるわけですから、ミツ

バチにとって貴重なわけですね。ただし、サルスベリには花蜜はなくて花粉源として重要です。花粉は成長期のミツバチの食料(蜂乳)として、また女王蜂の食料(ローヤルゼリー)の原料として不可欠のもので、動物の成長には栄養素として糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルが必要で、糖質は花蜜から得ますが、それ以外の栄養素は花粉から得ています。ミツバチは訪花して体中に付いた花粉を足のくし状になっている部分を器用に使ってかき集め、集めた花粉は花蜜を混ぜて団子状にして後足の外側に固定して巣に持ち帰ります。ミツバチの足に生えている硬

い毛は花粉団子を作り、持ち帰るために便利に出来ているのです。

花蜜は出さないが、花粉源として重要なものにイネやススキがあります。確認はないのですが、もし、サルスベリの花がもっともっとあれば、作物として農薬を多く使うイネに花粉を集めに行く必要がなくなり、結果的にミツバチが農薬の被害を受けないで済む、と言うことはないのでしょうか？



イラスト おおくぼひとみさん